

狭山市 入間川七夕まつり

8月6日(土)・7日(日)

15時～20時

3年ぶりに狭山市入間川七夕まつりを開催します。なお、会場内の混雑を回避するため規模を一部縮小して行います。

3年ぶりの開催に
ほくもウキウキ!



狭山市七夕の妖精
おりびい

孫にとって初めての七夕
なので、一緒に飾りを見
に行きたい(60代)

七夕飾りの
写真を撮りたい
(30代)

久しぶりの夏祭りだから、
友達と浴衣を着て行くの
が楽しみ♪(高校生)

学校で書いた
自分の短冊を
探すんだ(小学生)

やっぱり
狭山の夏といったら
七夕まつり!
(40代)

竹飾りナンバーワン投票

会場内を彩る多くの七夕飾り。来場された皆さんが「これだ」と思った飾りに投票してください。

◆投票受付期間

8月6日(土)、15時～20時

◆投票方法

下図の投票所か飾りに付いている二次元コードから



短冊記入コーナー

願いを込めた短冊で会場を彩りましょう。

場所:狭山市駅西口市民広場



会場マップ

車両通行禁止区域

トイレ

竹飾り投票所

赤ちゃんのお休み処・救護所



例年の七夕まつりからの変更点

- まつり会場を縮小して開催します
- 納涼花火大会は開催しません
- 露店など公道上での出店はありません
- 民踊流し、小学生七夕パレード、阿波踊りは開催しません



まつり会場の交通規制時間

8月6日(土)・7日(日)、15時～20時30分
 狭山市駅発「日生団地」、「智光山公園」、「狭山グリーンハイツ」、「狭山営業所」、「入間市駅」行きの路線バスはまつり会場を迂回します。

紙芝居で知る！ 狭山市 入間川七夕まつり

七夕まつりのいわれや歴史を分かりやすく編集した紙芝居があることをご存知ですか。平成25年、紙芝居「狭山の祭り物語 たなばた食堂」を当時市内に住んでいた童話・紙芝居作家の中村ルミ子さんが作成しました。この紙芝居は、七夕通り商店街の吉田会長から聞いたお話を基に作られたもので、江戸時代から続く狭山の七夕まつりの「原点」や大切にしてきた「心」を知ることのできる内容になっています。

物語は実際に読んでみてのお楽しみ…。このページでは、物語の中から狭山の七夕まつりに関する内容を、実際の紙芝居の絵と共にご紹介します。



昭和30年代には、道路の頭上に丸太を渡したやらい矢来方式での飾りになりました。面白くて大きな飾りが増え、人気のテレビアニメの飾りなども作られるように。



今のような七夕まつりになったのは、昭和初期に商店街の人たちが夕涼みの会として始めたのがきっかけ。ここから徐々に華やかさを増していきました。



狭山の七夕まつりの始まりは、江戸時代の中ごろ。竹に五穀豊穡や無病息災など、願い事を書いた短冊を下げて家の軒下に飾りました。また、竹を畑に差し、雨乞いもしたといわれています。





飾りは竹かごに和紙を貼り、紙の花を付けるなどして作られています。



竹飾りの竹の先端には、魔除けの飾りである「芯頭」を付けます。これは狭山の七夕まつりの特徴です。



サトイモの葉に溜まった露で墨をすって短冊に願い事を書き、竹につると字が上手になり、願いが叶うといわれていました。



狭山の七夕まつりは、関東三大七夕祭りの一つ。工夫を凝らした七夕飾りが、狭山の夏を彩ります。

紙芝居は市内の公立小中学校で活用されています。また、狭山市立図書館にもありますので、市民の皆さんもご利用いただけます。

